

今日の説教のポイント<マタイによる福音書 6章 16-21 節>

①人の目を気にして生きる生き方からの転換。それは、「隠れたことを見ておられる神様」(18節)をしっかりと見つめて生きることにある。

6章に入って同じテーマが繰り返されています。すなわち、施しをする時(1~4)や祈る時(5~7)に続いて、断食をする時も、「人に見てもらおうと思ってするな」、というイエス様の教えです(16~18)。つくづく、人の目を気にして生きる私たちの姿をイエス様は気にかけておられたのだな、と思わされます。人の目が気になるのは二千年前だけでなく、今も同じです。いや、情報手段が豊富になって、今の方が強くなっているような気がします。人の目を気にするのは、人の姿を見て評価する世の中の現実があるからです。ですから、簡単に、人に見てもらおうと思って行為する人を責めたり、人の目を気にし過ぎて動けなくなる人を情けないと言ったりしてはなりません。大事なことは、人の目を気にしなくてもいいのだという理由をしっかりと見出すことです。イエス様は言われます、「隠れたことを見ておられるあなたの父が報いて下さる」(18)と。私たちが目に見える身の回りの人々しか見ない限り、人の目を気にしない生き方はできません。しかし、目には見えないけれども、イエス・キリストを送って下さった神様を覚えて生き出す時に、人の目を気にする生き方から必ず、少しずつ、解放されて行くのです。

②地上の富は不変ではない。よって、「天に富を積みなさい」と主イエスは教えられます。この生き方によってこそ、展望は開かれる。

「天に富を積みなさい」(20)。人の目を気にしないで生られる方向をはっきり示してくれる言葉です。地上で得た富や人の評価はいつ失われるか分かりません。だから、どこまでも増やそうとし、人の目を気にする生き方が続くのです。また、「あなたの富のあるところに、あなたの心もあるのだ」(21)とも言われています。今、何を気にかけていますか？ 今、頭が一杯のことは、神様が喜ばれ、良しとされることですか？ 21節で考えなければならないのは、そういうことです。

「天に富を積みなさい」で考えるべき内容は、私たちに与えられた神様の愛にお応えして為す私たちの行為、すなわち、隣人への慈愛の行為だと言われています。その生き方の中に、平安も希望もあるのです。